Ｊクイックハンドボールの分析と考察

公益財団法人 日本ハンドボール協会
普及指導本部 小学生専門委員会

男子のゲーム分析と考察

- 攻撃回数・得点・攻撃成功率・シュート成功率が増加
- カットインシュート・ミドルシュートが増加，ロングシュートが減少
- オープンＤＦが増加，クローズドＤＦが減少
- ＪクイックになりオープンｄＦが増加したことで展開の速いゲームになったのではないか。
- テクニカルミスが増加していることから，展開の速い中でプレーや状況判断をしているため，ミスが発生するということも考えられる。
（結果・男子にはＪクイックハンドボールが理解され・浸透している）
- 男子において１試合当たりの両チームの攻撃回数，得点，攻撃成功率，シュート成功率すべてが増えたことは，よりスピーディーで積極的なゲームが展開された結果である。
- 横一線などのクローズドディフェンスが大幅に減っている。ゲーム様式変更のねらいが達成されていると思う。この防御体制の変化が，男子のゲームにおいては攻撃の全体像と相関関係にある。積極的な防御が攻撃回数，得点数の増加につながっていると思う。
- 男子でゴールキーパーセーブが減っているのは，７シュートエリアにおいてロングシュートが減り，ミドル，カットインが増加していることと関係がある。DF がより積極的になり，９m の外での攻防も増えたので，その分スピードに乗った中でミドル，カットインシュートが増え，GK としてはセーブしづらい環境となったのではないか。逆に言えばここを防ぐことができる GK や DF 方向性が失点を防ぐことにもつながってくる。

女子のゲーム分析と考察

- 女子はシュート力などから一線防御で十分対応可能，勝つためにはその DF が最適と感じるゲームが多かったように思います。新ゲーム様式への移行に沿った練習は行っていると思います。しかし，今回のゲームでは，自チーム選手の個人能力，対戦相手との関係の中で勝利に向けて最適な選択を考えた結果ではないか。
- 女子のゴールキーパーセーブが増えているのは，GK のスキルはもちろんありますが，CP のシュート力不足，個人スキルとも関係しているような気がします。女子の競技人口の減少とも関係があるのではないか。
- 攻撃回数・得点・攻撃成功率・シュート成功率に変化はない。
- クローズドＤＦが増加，オープンＤＦが減少（多くのチームがクローズドＤＦであった。）
- 女子にはＪクイックハンドボールは浸透しているとは言えないのでは…

オフェンスについての分析と考察

- 攻撃回数と得点が多くなったが，言い換えれば，ディフェンス技術が低くなったのではないだろうか。高いディフェンスをするチームが増えたのは事実かもしれないが，足を使って体の正面で守るという意識や技術まではいっていなかった。
- オープンＤＦのチームでボールを持ったプレーヤーに対して両手でがっちりつかむという反則が目立った。ホールディングは立派な反則で，正面だったらＯＫというわけではないので，段階罰が適用されるべき問題だと感じた。
- ６mや９mライン付近での反則，罰則，ペナルティなど，その種類と回数，またプレーの種類などを分析し，前年度と比較する必要があるのではないか。
- １対１の攻めが重視されているのでは？と感じた。
- Ｊクイックにより，確かに攻撃回数が増え，特に速攻が増加している。

ディフェンスについての分析と考察

- 男子のオープンＤＦによる攻防は判断力の向上やＯＦやＤＦの技術向上に大きな意味があると感じた。女子のオープンＤＦのチームが上位には少なかったが，続けていくことで中学生以上のカテゴリーに行った時に効果が出ると思われる。そういう意味でも来年の女子の動向が気になる。
- オープンＤＦが増えたとあるが、ＤＦせず攻撃優先とみられるチームがトップに多い感じがした。
- 女子は男子に比べ上位チーム同士だとクローズドＤＦが多いが，格下の場合はオープンＤＦが増えていた。
- Ｊクイックの考えは極端にオープンＤＦでなくても、６ｍ～１０ｍのピストンで良いのでは？６ｍラインべったりは無くすべきだとは思います。連動したＤＦ。
- ＤＦ軽視では無いと思うが、ＯＦ（速攻）優先と見られる選手（子供）が例年より多く感じた。中学校でＤＦが出来ない選手が増えないか心配。

～クローズドＤＦを採用しているチームについて考えられること～

- ゲームにおいてはクローズドＤＦを採用しているが、普段の練習ではＪクイックを理解した判断力，想像力，トータルモビリティーを高めるトレーニングをしているのかもしれない。
- ゲームで勝つことが目的となり、リスクの低いクローズドＤＦを採用している。個々の能力で劣っていても組織的なクローズドＤＦで守ることで勝機を見いだしているのかもしれない。
- 身長・体格や個々の能力で上回る技術の高い選手のいるチームと対戦するケース，状況でどのように対応するかを考え，クローズドＤＦを採用した。
- 組織力で勝るチームが，能力・身長・体格に勝るチームに勝てなくなってしまうから。
- 女子チームにおいては，競技人口やチーム数の減少が影響しているかもしれない。４年生が６年生を体格的に守りきれないなどの理由でオープンＤＦにできないでいる。
- 能力・身長・体格のある選手がいるチームの場合，狙われたりミスをしやすい選手はゲームをしていても面白いと感じないかもしれないからオープンＤＦにできない。
- オープンＤＦにしてみたら負けてばかりであったからかもしれない。

ミスについての分析と考察

- テクニカルミスの中で，パスキャッチミスは男子が増加，女子は減少している。しかし，そのことよりもその割合に目を向けたい。27 年度は男子で 30%，女子では 38%にも上っている。特に女子のゲームでは，ボールが手につかない場面（ドリブル，パス，キャッチ）を多く目にした。いわゆるボールが手に吸い付くようなプレーが少なかった。汗，両面テープなしということももちろんあるでしょう。パス，キャッチ，特に今回の変更のねらいの一つとされていた動きながらの正確なパス，キャッチは今後もっと意識づけされていくべきだと思った。
- テクニカルミスの中で被スティールが男女とも増えているのは，より積極的に相手ボールを奪う DF がされた結果だと思う。今後は，スティールされない技術を身につけることになり，そのことが更に DF のレベルアップにつながっていくという，らせん状のレベルアップにつながっていくことを期待したい。これがゲーム様式変更のねらいでもある。

分析の対象について

- 今回は，決勝トーナメントからの試合を分析対象としている。つまり，一定のレベル達しているチーム同士の試合を分析している。
- レベルの高いチームとレベルの低いチームとの試合，レベルの低いチーム同士の試合を分析し，Ｊクイックハンドボールと従来のゲームと比べて，攻撃回数とミスの種類，回数を比較する必要があると感じた。Ｊクイックハンドボールになり，たしかにゲーム自体はスピーディになったと思う。しかし，OF だけを見るのでなく，DF に関するデータも集めて分析することで，Ｊクイックハンドボールを検証していく必要があると感じた。
- 今回のビデオ撮りしての検証ですが，準決勝以降であるのでレベル差のある試合検証も欲しかっ

た。レベル差が大きいと子供によっては楽しくないと考える子がいるかも・・・楽しくない・・・ハンドボールをやめる。にならないか心配。
- 中学校ハンドボールは「Ｊクイックハンド」について，どのような認識や感覚でいるのか？肯定的か，否定的か？情報が欲しい。

Ｊクイックハンドボールへのゲーム様式の変更についての分析と考察

- 全国的にＪクイックの形はかなり浸透していたと思う。進む方向はよいと思う。
- 「登録選手全員参加」は子どもの能力の差がかなり出てくるので難しいと思う。
- オープンディフェンスは、これまでも高校・大学の男子チームの導入例や近年の高校女子チームへの流行を考えると，Ｊクイックの導入との双方向から，この流れが中学へも伝播するのは，時間の問題ではないか。
- 実際に映像を見て，データを取られている大学側の印象や考察に非常に興味がある。
- 全小に出場してくるチームはＪクイックを理解，または理解しようとしてくれていると思うが，ブロックや県を見ると，指導者の学ぶ姿勢によってまだまだ理念が浸透していない部分もある。

ゲーム分析をうけての提案

- 内容を優先するなら１５－１０－１５でクイック，という形もありえるのでは。
- タイムアウトが１回というのが苦しい。チームとしては２回あるとうれしい。
- ハーフタイムの練習が厳しい。出入り含めて４分ではアップがままならない。
- 今回「ゴールキーパーラインの踏み直しでスローオフのやり直し」がかなりあった。きちんと前足で踏んでいないということで，やり直しをさせられたシーンがたくさんあった。踏み足は後ろ足でもよいと思うし，踏んだ瞬間スローオフの笛を吹いて欲しかった。ゴールキーパーラインをきちんと踏むことより，キーパーがすぐスローすることの方に意味があると思う。すぐに吹かないとクイックにならないし，クイックにならないと女子のように全てのプレーヤーが帰陣して一戦防御になってしまう。ゴールし，キーパーがボールを持った瞬間にスローオフの笛を吹くというのもクイックを進める一つの方法だと思う。
- ゲーム時間についてはまだまだゲームを重ねてみないとわからないので検討が必要。
- ゲーム様式の更なる変更は行わずに，もう１年間このまま続けてデータを取るのはどうでしょうか？理由としては，すぐに変更するのは信用されないから，もう１年データを取って，今年だけではなく２年間を見ても同じ傾向だと言うことで提案していくのがいいと思う。
- まだまだＪクイックの理念の浸透が必要なところがあると思うので，目先の勝ちではなく，未来の明るいハンドボールを目指して啓蒙は必要である。
- Ｕ－１２研修会で今年の各県での変化の様子を生の声で聴くのもいいかなと思う。
- 全小に出るチームだけではなく，末端のチーム事情も聞いて考慮した方がいい。
- ゲーム様式の変更から私としてはルールを変更してもいいのかなと思う。それくらいの縛りがないとダメなのかとここ２年ぐらいやってみて思った。
  （例１）１セット目：オープンＤＦ　　２セット目：自由　　３セット目：オープンＤＦ
  （例２）１セット目：自由　　２セット目：マンツーマン　　３セット目：オープンＤＦ
  自分のチーム事情や理念に反する人たちはどうやっても反論すると思います。なのでルールとして採用するくらいの方がいいのかもしれません。（ゾーンＤＦを禁止したバスケのように）
- 女子のボールを小さく（０号球）する意見は賛成だが，中学女子が１号球にしてくれなければ，０号→２号ということになりそれは無理だなぁと思う。
- ボールについては，女子は０号でも良いかもしれないが，男女一緒にしているチーム的には分ける事の弊害も少しある。
- ゴールは高さを下げること位に賛成。ほとんどの GK が小さいので上にシュートすれば入るので、下に打てない選手がいる。特に女子は肩の筋力が無いので投げられない。世界のジュニアがどうなのか・・・？
- ゲーム様式の変更の必要性は無し。女子でも，速い攻撃を考える選手は明らかに増加した。あえて

変更するなら，３セットから２セットにして，タイムアウトを２回。
・ゲーム様式はこのまま継続（セットごとでの防御体制の変更もなし。）
・各チーム（特に女子）オープンディフェンスの積極的な採用。
・女子の０号球の使用はしない。
・来年度は決勝トーナメント以外の試合もいくつかピックアップして分析する。

今後の課題

・長期的視点に立った指導の推進
（勝つためだけではなく，選手たちを次のステージに上げるのが指導者の役割）
・オープンＤＦを理解し，適切な指導が行える指導者の育成や講習会の開催
（各都道府県での開催・コーチライセンスの必携）
・オープンＤＦを採用することで，年齢や体格の違う選手が同じコートでプレーする時の安全性や審判員のレベルアップが必要。
・各都道府県ハンドボール協会，指導者，保護者の理解が必要。
・バスケットボール(Ｕ－１２・Ｕ－１５)を参考にしたり，サッカーなどからも情報を集める。
（ゾーンＤＦの禁止・全選手の出場時間の確保など）
・勝つ嬉しさはもちろん必要だと思うし，そのための準備や戦術も必要だと思う。「勝った嬉しさ，いま勝った嬉しさ」と「将来勝てる嬉しさ」のバランスが大切になってくるのではないだろうか。
・いま勝てたとしても，将来（高校・大学・実業団）は，個人の力と組織力の両方が揃っていなければ格上の相手に勝つことはできないと思う。

その他

・分析していただいた学生から見たＪクイックの意見，感想が聞きたい。
(女子のボールを小さくする・Ｕ－１２のゴールの大きさを見直す等)
・数値的な分析は大いに参考になるものである。ゲーム様式を変更しての成果と課題が浮き彫りになった。これを指導している全国の皆さんに少しでも知っていただく機会があれば，今後のチーム指導の在り方を考える一助になると思う。
・積極的に取り組んでいるチームでは，チームの課題や指導の在り方の構築は進んでいると思うが，ゲーム様式の変更に伴う練習方法の構築ができていないチームやチームのメンバー構成が十分でないチームについて頭を悩ますところだと思う。特に女子チームの数値はそういうことが関係しているのだと思う。
・指導者として，今いる目の前の子どもに「勝たせたい」そのために「勝てるゲームプランの選択肢は？」と考えると流れに反するチームはあるのだと思います。これも次のステップ先が確実にあるチームと不明瞭なチームがあると思う。それぞれの台所事情があり，一辺倒に合意，実施は難しいと思うが，協会としては真摯に啓蒙（資料提示，講習会の実施など）で理解してもらう努力が必要だと思う。
・Ｊクイックになって昨年より悪い数字が出たところは，それでいいのだと思う。なぜならば，それを改善することでレベルアップになるから。キャッチミスが増えたところなどは，どうしたらプレッシャーの中でミスなくプレーできるかといったように指導者は考え，そして数年後にはプレッシャーの中でもミスをしないプレーヤーが育つ。そのためのＪクイックなのだと思う。そう考えると，女子の結果に変化がないのが大きな問題なのではないか。そこをどうしていくのかを小学生専門委員会で検討したり，ブロック会議やＵ－１２研修会で話題にしていきたい。
・ゲーム様式の変更に関する意見は全国多々あると思いますが，今回の全国大会でゲーム様式が変更になったにもかかわらず，大きな問題もなく無事終了したことにまず感謝しています。また，実際に前年と比較した客観的なデータが出るということは小学生関係者だけでなく，中学高校など上のカテゴリーの指導者の意識を変えていくうえでも大きな説得力をもつと思います。